

平成27年度 第四回宜野湾市市民協働推進協議会 会議録（要旨）

日時：平成27年12月23日（水）午後7時00分～午後9時05分

場所：宜野湾市役所 第三常任委員会室

出席：岩田委員長、宮城政一副委員長、稲垣暁委員、新城清子委員、島袋盛子委員、  
宮道喜一委員、宮城美由委員、  
事務局（3名）

欠席：前田有得委員、中本岩郎委員、国吉孝博委員

## 開会

### ～事務局より第三回協議会の振り返りと重点施策の説明～

**委員** 施策1「協働情報の市報やホームページへの掲載」とあるが、HPだけでは、必要な情報にはなかなかたどり着けないので、SNSの活用などはよいと思うが、HPの発信で十分と考えているのか。

**事務局** 市としては、責任の所在など検討事項が多いことから、新しいSNSの活用には踏み込まず、HPの強化に留まっているのが現状です。

**事務局** 整備については、担当部署に働きかけ、選択肢を増やすよう進めていきたい。

**委員** 拡散されたリアルタイムの情報は非常に効果があるので、早急に検討する必要があると思います。

**委員** 行政としてSNSの運営にはリスクが高いため、中間支援的なものが、自治会、中学校区単位で掲示板的なものを作ることができれば、やりやすいと思います。

**委員** 情報が飛び込んでくる時代になっている。行政ではない別の組織が行うことでデメリットよりメリットが多いと思います。

**委員** 行政の情報部門の担当が窓口になったほうがよい。

**委員** 施策1については市報とHPに限定せず、多様な媒体の活用としたほうがよいのではないのでしょうか。

**事務局** 施策4「自治会活動等の地域情報をより楽しく、分りやすい情報発信の研究・実施」は各自治会などの主体が自分たちで発信できる支援をしていき、発信後に、施策9「活動情報の一元集約・情報窓口の設置」で一元的に管理して、HPで集約したものが出会いの場になるよう整備するものと考えています。

**委員** 施策16「各種助成金情報の提供」は、市の情報発信か。

**事務局** 民間の助成金の情報も収集して市のHPでお知らせする予定です。

### ～事務局より施策11「協働や地域づくりを学ぶ研修会の開催、地域コーディネーター養成講座の開催」、施策21「市民団体、企業、教育機関、行政などのマッチング交流会の開催」、施策23「市役所内での市民協働研修実施及び協働推進員の構築」の3つの施策サイクルの説明～

**委員** 施策11の概要に、地域づくりを学んだ人たちと一緒に研究会のようなものがあれば、地域からファシリテーターやコーディネーターを地域から育成していくような仕組みができたらいと思い「地域づくり研修会の設置」を提案しています。

**委員** 施策 20 の「自治会や地域単位での話し合いの場づくり」は、協働の中でそういった場をしっかりと設定することを明確にし、協働の場を推進するということを市民協働でできたらいいと思います。

**事務局** 施策 20 の場を作るのは自治会や団体になるので、行政が場を作ると依存体質になるので、場づくりを支援をするというイメージです。

**委員** 一歩引いた行政のようなところが、社会の課題に対して、話し合う人をバランスよく声掛けをし、場を作ってくれることで、話やすくなる。公正なセッションがいろんな人を集めてセッティングすることで、問題解決に進みやすい。

**委員** 施策 14 「中間支援組織の研究・育成」では、中間支援組織を実現するために研究し、次にどう作るか。育成となると行政に合わせるイメージで、育成という言葉が気になる

**委員** 「研究する」というところで締めくくり、分けて考える、その方が決めつけていない感じがある。中間支援組織に対してはその後に、話をしたほうがいい。

**委員** 中間支援「組織」の研究・育成ではなく、「機能」の研究・育成ではないか。「組織」である必要はない。

**委員** 実施に関する視点からも、機能と人や物を育成するイメージではないか。

**委員** 施策 14 は、もう少し早く始めた方がいいのではないか、

**委員** 施策 2 「協働情報誌の発行」は情報収集や取材することは学びや人材育成になるので、ぎょうせいだけでなく、複数の民間も交えて、編集委員会などを行った方が、結果的に研究委員会になったり、中間支援の積み重ねていく場になるので、協働の現場事例を取材に行って、民間側と行政側の声も聴いて、協働の成果と課題を明らかにしていく。

**委員** 今まで積み上げてきた協働の現場の事例を洗い出し、実際に積み重ねていく中で 5 年後に事例を評価する。

#### ～事務局より計画書全体の項目の説明～

**委員** なぜこれが必要というのが無いと分かりにくい。

**委員** 実施計画の位置づけが、計画から見た人からでもわかるようにしたほうがよい。

**委員** 図のようなものがあると視覚として訴えられると思います。

**委員** 地域課題が中心になるので、目次の所に、人口や自治会の数、支えあい委員会の取り組みや 5 年後の人口推計など、宜野湾市の地域状況が入れられないか。

**委員** 協働を始めたことによって起こる変化が目に見えて分かる。

**委員** 重点施策どうしの関連性やつながりが、図のようなもので作れないか、そういうものがあると視覚に訴えられると思います。

**委員** いきなり重点施策一覧があっても分らないと思うのでその前に関係図が前にあると、ある程度把握できると思います。

**委員** 興味と感心で引きつけないと次に行かない。指針の「協働の主体と市民の関係図」のようなものがあると良い。

**委員** 29 の施策を上げて、12 の重点施策以外はどのようにすることも書くのか。

**事務局** 繋ぐものとして入れます。

**委員** 主語が自治会か行政なのかははっきりしないものを整理してほしい。

**事務局** 場を作るのは地域なので、促すために市が支援・推進する。今の書き方だと分かりにくいので修正したい。

閉会